

令和7年度 学校経営の改革方針

I めざす学校の姿

1 学校教育目標

『心豊かに 人とつながり たくましく生きる 愛宕の子』

2 めざす学校像

- (1) 主体的・対話的な学びを通し、生きる力をはぐくむ学校
- (2) あいさつと思いやりにあふれ、一人ひとりのこどもの居場所がある学校
- (3) 安全・安心で、保護者・地域に信頼される学校

3 めざすこども像

- (1) 自ら考え行動し、ともに学び合うこども
- (2) 互いを認め合い、自分も人も大切にすることも
- (3) きまりを守り、最後までやり抜くこども

4 めざす教師像

- (1) 自己研鑽に努め、授業を通してこどもの成長を引き出す教師
- (2) 豊かな人間性と高い倫理観を備え、誠実に課題解決に向かう教師
- (3) 保護者・地域との連携を大切にするとともに、組織的に対応できる教師

II 経営方針

(1) 研究授業を核としつつ授業力の向上に努め、日々の授業を大切にし、確かな学力を身につけた主体的に学び続けるこどもの育成を図ります。

(2) 特別支援教育、人権教育の視点をいかした教育活動を重視し、こども理解を深め、誰もが居場所のある学校づくりをすすめます。

(3) 規律ある安心安全な学び場としての学校教育環境を整え、こどもの非認知能力を育むための教育活動を推進します。

(4) 家庭や地域との信頼関係を築き、地域とともにある学校づくりをすすめます。

(5) チームで組織的に対応できる仕組みを構築し、組織的な学校運営と風通しのよい働きやすい職場づくりをすすめます。

Ⅲ 経営方針の達成方策

(1) 授業力の向上と確かな学力の育成

① 研修長、指導教諭を中心に、「算数科」を窓口とした、児童主体の授業研究

- ・校内研修の充実→ICTを活用した複線型(児童主体)授業への転換
- ・授業力UP5★ver.2 に基づいた個別最適×協働的な学びのある授業
- ・研究授業を核とした、授業改善の取り組み
- ・経験年数5年以下授業や師範授業を活用したOJTの充実
- ・ライフステージに応じた校外研修会などへの積極的な参加

【主な指標】

- ・指導主事招聘による算数科を軸に児童主体の授業研究(各学年2回以上)
- ・アンケート「授業力UP5★ver.2に関して」(教師:100% 児童:90%以上)
- ・アンケート「ICTの活用に関して」(教師・児童:活用の質の向上 前年度以上)
- ・経5授業, 師範授業を活用した授業研究(経験年数に応じた回数)
- ・先進校視察または授業改善の研修講座へ参加(一人1回以上)

② 学力向上の取組の充実

- ・ICTを活用した個別最適な学び(ドリルパーク等)の推進
- ・学力調査結果分析と弱みに対応した重点取組の実施
- ・学習規律の定着(「がんばっ10」の徹底)
- ・学Vivaセット、「学調」「みえSC」の過去問の活用
- ・朝学習(読解力向上ワークシート)の充実
- ・家庭学習(家庭学習の手引き・自主学習の推進)の充実

【主な指標】

- ・学力調査分析結果を踏まえた授業改善の取組(教師:100%)
- ・「がんばっ10」強化週間の達成率(全項目85%以上)
- ・アンケート「授業内容の理解に関して」(児童:90%以上 保護者:90%以上)
- ・アンケート「家庭学習に関して」(児童:90%以上 保護者:85%以上)
- ・家庭学習強化週間(年2回)

③ 読書好きのこどもを育てる教育活動の充実

- ・授業における学校図書館の活用(並行読書、ポータルサイト活用など)
- ・図書館来館を促す取組(図書委員による「図書祭り」などの取組や声掛け)
- ・図書巡回指導員、読み聞かせボランティアの活用

(ブックトーク、図書館の掲示、朝の読み聞かせなど)

- ・家庭読書の取組の推進(「親子読書」、PTA家庭教育学級との連携など)

【主な指標】

- ・児童の年間貸し出し冊数(昨年度比プラス)
- ・読み聞かせボランティア活用回数のべ回数(低学年20回以上 高学年10回以上)
- ・アンケート「読書に関して」(児童:85%以上 保護者:70%以上)

(2) 誰もが居場所のある安心できる学校体制づくり

① 特別支援コーディネーターを核とした特別支援教育の推進

- ・「わかる・できる」を実感する特別支援教育の視点をいかした授業づくり
- ・すずっこファイル、児童生徒理解支援シート活用による途切れのない支援
- ・専門性向上のための特別支援教育に関する研修会の実施
- ・保護者、関係機関(こども家庭支援課など)との連携(支援会議、ケース会議、SC・SLS・支援員等の活用)
- ・校内特別支援委員会の実施(毎週)と情報共有(毎月)
- ・刺激の少ない落ち着いた学習環境の整備

【主な指標】

- ・特別支援教育に関する研修会(1回)
- ・すずっこファイル・子ども支援シートの作成(必要児童100%)

② 一人ひとりが大切にされ、いじめや差別、新たな不登校を生まない集団づくり

- ・被差別のこどもを核とした学級づくり(こどもレポート研修会実施)
- ・こどもたちの言動のよさを価値づけた賞賛の言葉がけ
- ・いじめアンケートの実施と教育相談
- ・仲間づくり(学級経営)や人権教育に関する研修会の実施
- ・「鈴鹿市不登校支援初期対応マニュアル」に沿った対応

【主な指標】

- ・子どもレポート研修会(2回)
- ・アンケート「いじめに関して」(児童:100% 保護者:100%)
- ・不登校児童数(前年度比マイナス)

③
心

安

安全な学校環境整備と保護者との信頼関係の構築

- ・教職員の意識改革と学校の危機管理能力の維持・向上
- ・危機管理マニュアルの不断の見直し
- ・保護者への誠実な対応と「家庭訪問シート」「家庭訪問カード」「電話対応シート」などを活用した記録の保管
- ・保護者の思いに寄り添う姿勢
- ・組織対応による情報共有と問題事案の未然防止
- ・生活事故、問題行動などへの対応訓練

【主な指標】

- ・問題事案の確実な情報共有(各シートを活用した記録・回覧の徹底)
- ・生活事故などへの対応訓練(3回以上)
- ・アンケート「危機管理に関して」(教師:100%以上)

(3) 人とつながり、主体的に行動する力と非認知能力の育成

① 自己肯定感を育む学級活動の充実

- ・非認知能力育成に向けた重点取組の設定と取組後の児童の振り返り
(達成感や感動が得られる教育活動や学校行事の充実)
- ・非認知力向上を意識づけるための掲示や目標設定
- ・自己肯定感を高める、教職員による日々の言葉かけ
- ・非認知能力アンケートの実施と検証

【主な指標】

- ・鈴鹿市版非認知能力アンケート(4項目 プラス)

② 落ち着きのある生活態度と健全な心の育成

- ・挨拶・言葉遣い・時間・履物・清掃などの凡事徹底
- ・校内環境美化の励行(環境の乱れ→言葉・心の乱れ→行動の乱れ)
- ・「愛宕小のきまり」(内規含む)に基づいた統一感のある生徒指導
- ・「事案対応シート」活用による問題行動の迅速かつ組織的な対応

【主な指標】

- ・アンケート「挨拶・言葉遣い・チャイム・スリッパ・掃除に関して」(児童:90%以上)
- ・アンケート「きまり・安全に関して」(児童:100%)

③ コミュニケーション力の育成

- ・学習活動を通して、話し方、聞き方、会話する力の育成
- ・学校生活におけるSSTを意識した日常活動

(4) 家庭や地域と共にある学校づくりの推進(地域に開かれた学校の実現)

① 学校情報の積極的な発信

- ・学校だよりやHP、メール配信システムなどによる学校情報の発信
- ・保護者の学校への参観の機会確保

【主な指標】

- ・学校だより発行(20号以上) HP(月1回以上更新)
- ・アンケート「情報発信に関して」(保護者・地域 90%以上)

② 地域人材や地域教材の活用

- ・生活科・総合的な学習の時間などでの地域人材の活用
- ・継続的なボランティアの運用(読み効かせ、図書館整備、宿題支援)
- ・学習支援ボランティアの積極的活用

【主な指標】

- ・地域人材、ボランティアの活用 各学年学期1回以上
- ・アンケート「ボランティアに関して」 児童90%以上

③地域活動への参画と地域連携の強化

- ・愛宕地域づくり協議会との連携
- ・児童の地域行事への参画(海岸清掃、愛宕の灯り、ライブイン愛宕など)
- ・地域との協働による避難訓練や登下校の見守りなどの実施
- ・学校運営協議会での協議を踏まえた学校運営

【主な指標】

- ・アンケート「コミュニティ・スクールに関して」(保護者・地域 90%以上)

④異校種との連携推進

- ・保育園・幼稚園、中学校区の小中学校との連携を勧める

(5)組織的な学校運営と働きやすい職場づくり

①二部会や各委員会の活性化

- ・学校経営方針と関係者評価に沿ったP(計画)D(実行)C(評価)A(対策・改善)サイクルの遂行
とO(観察)O(状況判断)D(意思決定)A(行動)の実行
- ・各部長同士や管理職との校務の進捗状況確認(提案内容の部会前の共有)

②教職員の同僚性の醸成とコンプライアンス遵守

- ・風通しの良い、安心できる職員集団づくり
- ・服務規律違反を許さない職員風土の確立
- ・セクハラ・体罰アンケートの実施
- ・コンプライアンスに関わる研修会の実施

【主な指標】

- ・アンケート「コンプライアンス研修会(夏季1回)後」 教員100%

③こどもと向き合う時間確保のための働き方改革

- ・年間計画、学期計画を立て、計画的な職務遂行
- ・問題行動等の未然防止推進と即日対応
- ・ICT活用(打ち合わせ・校務文章・行事反省など)と確実な引継ぎによる校務の効率化
- ・職員会議提案文書(ペーパーレス)の事前確認による会議の効率化
- ・総勤務時間の縮減と年休取得率の向上

【主な指標】

- ・月45時間(年間360時間)を超える時間外労働者の年間のべ人数 0人
【令和6年度実績 7人】
- ・一人当たりの月平均時間外労働 23時間以内 【令和6年度実績 23.8時間】
- ・設定した日に定時退校できた職員の割合 60%以上
- ・一人当たりの年間休暇取得日数 23日以上【令和6年度実績 23.5日】
- ・放課後開催の60分以内に終了した会議の割合 60%以上